

平成 29 年 3 月 16 日

公益財団法人

産業構造調査研究支援機構 御中

住 所 〒192-0395 東京都八王子市大塚 359 番地

機関名 帝京大学
代表 冲永佳史



産業構造調査研究事業報告書

産業構造調査研究事業の実施について、下記の通り報告します。

記

- 1、研究課題 中国経済転換期における産業構造の変化・グレードアップ及び日中産業連携
- 2、研究代表者 帝京大学経済学部教授 郭 四志
- 3、研究実施の概要 別紙のとおり

研究事業に関する実施概要

以下の日中プロジェクト研究会は実施した。

2016年5月27日（金）研究会 八王子キャンパス。

2016年7月27日（水）研究会 八王子キャンパス。

2016年10月22日（土）研究会・霞関キャンパス。

2016年12月17日（土）研究会・東京大学社会科学研究所。

2017年2月28日（火）研究・交流会・東京都台東区亀清屋。

なお、2016年12月26日（月）～12月30日中国現地調査と中国社会科学院工業経済研究所趙教授、国家発展改革委員会産業経済・技術経済研究所傅保宗副主任など中国側の研究者たちとのセミナー。12月27日中国唐山鉄鋼製鉄所見学・調査、12月28日に天津生態園・アニメ産業園など新しいビジネス企業を見学・調査。12月29日に、日中プロジェクト研究が研究会議。

2017年2月27日（月）、中国研究者代表団が来日；日中研究者交流会議。2月28日（火）Garage Sumida(14年3月に墨田区で設立されるものづくりの施設)見学；中国側の研究者と日本側研究者との交流会議

3月1日（水）新日鉄住金君島製鉄所見学。

研究成果に関する実施概要

1、日中両側共同研究会・シンポジウム

帝京大学主催シンポジウム「転換期の中国経済と日中産業連携」が開催された。

1、開催日程： 2017年3月2日（木） 2、場所：帝京大学霞ヶ関キャンパス 3、参加者

日本貿易振興会（ジェトロ）中国・北アジア課の研究調査員、日中科学技術文化センター、科学技術振興機構中国総合研究センター、毎日新聞出版「週刊エコノミスト」編集部、日中経済協会、東洋文庫、伊藤忠商事、双日、伊藤忠経済研究所、国際経済研究所、新日鉄住金、三菱重工、三菱電機、伊藤忠商事、三菱商社、みずほ銀行中国事業部、日本経済新聞社、東洋経済新報社、中国大使館商務処、亜細亜大学、中央大学、帝京大学経済学部教員（と帝京大学経済学部学生・大学院生を含め）、研究者や実務担当者、新聞・出版記者・編集者など計100人ぐらいが参加した。

日中共同研究成果発表会・シンポジウムの趣旨

これまで高成長を続けてきた中国経済は近年成長率が鈍化し、2011年以降、鉄鋼・石炭など重化学工業では需給ギャップが深刻化している。このため、現在中国では成長エンジンを生産性の向上に切り替えていくという「経済発展パターンの転換」と、産業構造の調整が求められている。

本シンポジウムでは、中国国家発展改革委員会などの中国の研究グループとの共同研究の成果を報告し、中国経済転換期における産業構造変化・グレードアップの最新の動きや特徴、日中連携の可能性を検討することを通じて、中国の経済パターン・産業構造の新たな転換に伴う供給側改革・産業高度化に関する最新な動き及びそれに伴う日中の経済関係の新たな展開の方

向性を提示・発信してゆきたい。

(なお、シンポジウムについて、別紙(シンポジウム・プログラム)をご参照ください。)

2、研究報告書『中国経済転換期における産業構造の変化・グレードアップ及び日中産業連携』

はじめに

第1章 郭 四志 中国経済の転換について

第2章 傅 保宗 「新常态(ニューノーマル)」下の中国産業構造と供給側の改革

第3章 趙 英 中国産業のグレードアップとイノベーション

第4章 丸川 知雄 中国製造業に関する強みと弱み—事例研究—

第5章 趙 儒煜 中国産業の競争力と日中産業比較

第6章 堀内 英次 日本の産業政策と産業構造の転換について

第7章 長田 博 日本の産業構造と消費構造の変化

第8章 真家 陽一 日中産業の補完と日中企業の連携

終わりに

「日本語論文・研究報告書 2016年3月刊行」

報告書要旨

中国経済は2010年の10.6%の高成長から2015年に6.9%まで鈍化し、いわゆる高度成長から、新常态(ニューノーマル)の中高速成長段階に入っている。2011年以降、労働力と固定資産・不動産投資の拡大によって成長していくという従来の投資型、鉄鋼・石炭など重化学工業に依存する成長パターンが限界にきている。中国は、需給ギャップが深刻化する中で、中高速成長を持続させるために、成長エンジンを生産性の向上に切り替えていくという「経済発展パターンの転換」と、産業構造の調整が求められている。

本研究では、減速している中国経済の現状とその背景を概観し、産業構造転換・グレードアップの政府の取り組み・対策を検討し、さらに13次五カ年計画(2016~2020年)に関する中国政府の産業構造調整への取り組みを分析し、中国経済転換期における産業構造変化やグレードアップ・イノベーションの特徴を明らかにする。加えてこれまで、特に1970~80年代における日本の産業構造の転換や産業構造の調整政策に関する経験ノウハウは、今日の中国の産業構造の転換・調整にとって、大変参考になる。異なる経済発展段階における日中産業構造が補完・連携する余地が大きいと考えられる。

本研究の目的は、日中共同研究により、中国の産業構造変化やグレードアップ・イノベーションの特徴を明らかにし、中国産業構造の調整・変化の日本経済への影響や日中両国産業の補完・連携の可能性及びそのプロセス・方法も解明することである。

本研究の意義は、中国経済転換期における産業構造変化・グレードアップの特徴や日中連携の可能性を研究し、明らかにすることを通じて、中国の経済パターン・産業構造の新たな転換に伴う日中の相互投資・貿易や経済関係の新たな展開の方向性を提示・把握することができることである。

期待される主な成果・効果は、以下のとおりである。

- 1、学術的に転換期の中国産業構造の変化の特徴の解明。
- 2、日中産業・ビジネス連携に資すること。
- 3、日中産業の発展・経済関係の強化に寄与すること。

経費の使用内訳

費 目	当 初 予 定 額	実 支 出 額
① 図書、機械器具及び消耗品	約 10 万円	85 万 5,544 円
② 調査研究打ち合わせ会議費	10 万円	7 万 6,212 円
③ 調査・資料収集などの目的で出張する場合の旅費及び宿泊費	232 万 9,400 円	112 万 3,426 円
④ 研究成果に関する研究会又は研修会に要する経費	約 57 万円	114 万 6,048 円
⑤ 研究成果の刊行に要する経費	30 万円	21 万 6,000 円
⑥ 研究補助目的で使用するアルバイト費	5 万 7,000 円	6 万 6,000 円
⑦ その他	4 万 3,600 円	1 万 6,770 円
総計	350 万円	350 万円

「転換期の中国経済と日中産業連携」

これまで高成長を続けてきた中国経済は近年成長率が鈍化し、2011年以降、鉄鋼・石炭など重化学工業では需給ギャップが深刻化している。このため、現在中国では成長エンジンを生産性の向上に切り替えていくという「経済発展パターンの転換」と、産業構造の調整が求められている。

本シンポジウムでは、中国国家発展改革委員会などの中国の研究グループとの共同研究の成果を報告し、中国経済転換期における産業構造変化・グレードアップの最新の動きや特徴、日中連携の可能性を検討することを通じて、中国の経済パターン・産業構造の新たな転換に伴う供給側改革・産業高度化に関する最新の動き、及びそれに伴う日中の経済関係の新たな展開の方向性を提示・発信してゆきたい。

【日時】 2016年3月2日（木）（12:30 開場）

13:00-18:00 シンポジウム

参加費無料

18:00-19:30 懇親会

参加費 2,000 円

【場所】 帝京大学霞が関キャンパス 東京都千代田区平河町 2-16-1 平河町森タワー9階

地図と交通アクセス：<https://www.teikyo-u.ac.jp/access/kasumigaseki.html>

プログラム

13:05~13:10	開会挨拶	帝京大学理事長・学長	冲永 佳史
13:10~13:40	講演①	帝京大学経済学部教授	郭 四志
「転換期の中国経済と今後のゆくえ」			
13:40~14:10	講演②	中国国家発展改革委員会 産業経済と技術経済研究所主任	傅 保宗
「「新常态」下の中国工業構造の調整と供給側の改革」			
14:10~14:40	講演③	東京大学 社会科学研究所教授	丸川 知雄
「中国製造業に関する強みと弱み—事例研究—」			
14:40~15:10	講演④	中国社会科学院 工業経済研究所教授	趙 英
「中国産業のグレードアップとイノベーション」			
15:10~15:25	休憩		
15:25~15:55	講演⑤	帝京大学経済学部准教授	堀内 英次
「日本の産業政策と産業構造の転換について」			
15:55~16:25	講演⑥	帝京大学経済学部教授	長田 博
「日本の産業構造と消費構造の変化」			
16:25~17:25	講演⑦	中国吉林大学北東アジアセンター教授・副センター長	趙 儒煜
「中国産業の競争力と日中産業比較」			
17:25~17:55	講演⑧	名古屋外国語大学外国語学部教授（前ジェトロ北京事務所次長）	真家 陽一
「日中産業の補完と日中企業の連携」			
17:55~18:00	閉会挨拶	帝京大学経済学部長	廣田 功
18:00~19:30	懇親		

日本語と中国語の
同時通訳付き

参 加 録

- ▶ 参加の申し込み（定員100名）は3月1日までに氏名、所属、メールアドレスおよび懇親会参加の有無を事務局 (horouchi@main.teikyo-u.ac.jp) までお知らせください。
- ▶ 問い合わせ先：帝京大学経済学部 堀内英次 Tel/Fax 042-678-3370